青森県民共済生活協同組合

青森市石江1－24
☎017－771－8880

代表理事 理事長
大瀬　良一氏

小さな掛金で 大きな保障を

―2022年度について。

「新型コロナウイルスの感染拡大による生活様式の変化、公衆衛生への意識、働き方の多様化など日常生活の変化を余儀なくされ、はや3年が経過しました。当組合では新型コロナウイルス感染症により入院等をされた組合員の皆さまに2022年12月末現在、延べ2万3278件、約15億8千万円の共済金を支払いました。今後も病気や事故に遭われたときにお役立ていただけるよう、共済金の迅速な支払いに努めてまいります」

―インターネット上の手続きを強化する。

「ネット上で保障内容の確認や各種変更手続き、証明書等の再発行手続きが可能な『ご加入者用マイページ』をご用意しております。また『青森県民共済LINE公式アカウント』ではお役立ち情報をお届けしています。〝友だち追加〟をして、県民共済のことをよく知っていただきたいと思います」

―弘前センター（仮称）を開設の予定。

「21年開設の『八戸センター』（八戸市長苗代）は、多くの方にご利用いただいておりますが、今年は津軽地域の相談窓口『弘前センター（仮称）』の開設も予定しております。各地の商業施設などで『まちかど相談会』も定期的に開いておりますので、ぜひご利用ください。今後も『小さな掛金で大きな保障』をお約束するとともに、『感心、感動、感謝』の気持ちを忘れず、組合員の皆さまに寄り添った事業運営をしてまいります」

LINE 公式アカウント
友だち募集中
@aomori-kyosai

損害保険ジャパン㈱青森支店

青森市新町1－1－14
（損保ジャパン青森ビル）
☎017－773－4428

支店長
藤本　将人氏

一番に、安心をお届け。

―事業展開と、その思いは。

「日本初の火災保険会社を源流にする弊社が、1946（昭和21）年5月に青森に初出店してから今年で78年目を迎えます。地域の代理店の皆さまと一緒に、保険事業とその先の安心・安全・健康の領域でお客さまに価値ある商品・サービスをお届けし青森県の発展に貢献することが私たちのミッションであり、今も昔も変わらない思いです」

「自動車保険では、万一の事故時の『通報機能』、ALSOKの『かけつけ安心サービス』、『通話機能で警察・消防手配などができる『つながるドラレコ』の『Driving!（ドライビング）』を提供。『りんご娘』の皆さんに専用パンフレットにご登場いただきました。事故発生時は、お客さまとドラレコを通じてすぐにつながることで安心を実感いただいており好評です」

―社会課題解決に向けて。

「昨年の社会貢献やSDGsの活動では、『SAVE JAPANプロジェクト』として、青森市内の小河川で地域の皆さまと生物多様性の保全活動や、代理店の皆さまと廃棄食品削減に向けた『フードバンク』活動を行い、青森県社会福祉協議会を通じて食品を寄付させていただきました」

―2023年度の抱負を。

「青森県の皆さまに『一番に、安心をお届け。』が、私たち全職員のビジョン（なりたい姿）です。その実現に向け、代理店の皆さまと一緒に多くの『安心』をお届けできるように取り組んでいきます」

つながるドラレコ「Driving!」をPRするりんご娘

SOMPOひまわり生命保険㈱青森支社

青森市新町1－1－14
（損保ジャパン青森ビル4階）
☎050－2016－8559

支社長
米持　聡氏

健康応援企業を目指して

―健康応援の取り組みは。

「弊社は、『健康応援企業への変革』を掲げ、生命保険の伝統的な機能である『万が一の備え』としての『Insurance』に、毎日に寄り添って健康を応援する機能『Healthcare』を組み合わせた新たな価値『Insurhealth®（インシュアヘルス）』を提供しています。けがや病気などへの保障はもちろん、病気の予防・早期発見につながるサービスの提供や専門医療スタッフへの電話相談なども行うことで、可能な限り『万が一』をなくしたいと考えているためです」

「2021年10月発売の『健康をサポートするがん保険 勇気のお守り』は23年2月、販売35万件を突破しました。この保険は、がんの予防・早期発見・万が一の保障、治療後のケアをトータルにサポートします。22年9月には女性活躍を掲げる企業向けに『リンククロス ライフィズ』をリリースしました。女性のライフデザイン支援や、生理、将来の妊娠、更年期のリスクチェック機能などを備えています。同年10月には生活習慣と血糖値の関係を把握できる『リンククロス 血糖コーチング』をリリースし、日々の生活改善にご活用いただいています」

―新年度に向けた抱負は。

「弊社は、青森県民の皆さまの健康維持につながるような情報やサービスを提供し、『あなたが健康だと、だれかがうれしい。』を企業スローガンに、検診受診率の向上や病気の早期発見に貢献してまいります」

SOMPO ひまわり生命
あなたが健康だと、だれかがうれしい。

アクサ生命保険㈱青森支社

青森市新町1－2－18（青森商工会議所会館2階）
☎017－777－7020

青森支社長
大森　賢二氏

あなたの会社を健康に。

―業務内容は。

「当社は県内において、1971（昭和46）年に青森商工会議所の生命共済制度を受託開始後、県内商工会議所、商工会の共済制度の推進を通じ、経営者・従業員の皆さまの福利厚生制度の充実を図るべく、地域貢献活動を続けてまいりました。県内では現在、7商議所と1商工会に店舗を配置しております」

―健康経営について。

「当社は県内企業・団体の『健康経営』導入サポートに注力しており、2020年12月8日に青森県と包括連携協定を締結しました。中心に『健康経営』の普及を通じた県民の健康づくり推進を掲げ取り組んでいます。健康経営とは、会社が従業員の健康を重要な経営資源と捉え積極的な健康促進を行う経営スタイルです。従業員の健康や『ワークエンゲイジメント』を高める取り組みを行うことで、業績や生産性の向上につながります。16年には健康経営優良法人認定制度も創設され、23年度は中小規模法人部門で県内125社を認定。ホワイト企業としてブランド価値が向上し人材確保にもつながっています」

―サポート体制は。

「支社社員110人が健康経営アドバイザー資格を有し①支援プログラムによる実践支援②県・国の健康経営優良法人認定支援―など『企業の経営理念と従業員の幸せ』に寄り添うプログラムを用意しています。ぜひお気軽にご相談ください」

※「健康経営」はNPO法人健康経営研究会の登録商標。

健康経営アクサ式
アクサ生命の健康経営は心身の健康に加えライフプランもサポート

2023 新年度　私の展望 TOP INTERVIEW　青森県主要団体・企業トップインタビュー
「Web東奥」でも本特集がご覧いただけます。Web東奥 私の展望 検索
https://www.toonippo.co.jp/common/too/tenbo/2023/index2023.html

中央ビルコン㈱

東京都千代田区五番町4-4-10F
☎03－3511－7411

代表取締役社長
清藤　良則氏
（青森市出身）

混迷の時代「備え」が大切

―日本経済の現状について。

「新型コロナウイルスとの向き合い方が変わることになりましたが、不透明感はぬぐえません。貴金アップと物価高の嵐が米国のインフレ・金融政策、ロシアのウクライナ侵攻、そして後も不透明です。また、日本経済にストレートに影響を及ぼすロシアを巡る米国と中国の動向からは目が離せません。日本の経済社会は、コロナや賃金・物価高だけでなく世界の政治不安・金融不安とも向き合い、加えて自然災害など、何があっても不思議ではない時代。混迷の時代を今年も歩んでいるように思います」

―不動産事業について。

「本業にしっかり取り組むことは当然でありますが、同時に、変革の時代、混迷の時代、時代時代においての『備え』が大事であります。収益ビルによる不動産経営は、物件の選定と運営管理を正しく行うことで、本業に万一のことが生じた場合の『備え』となる有効な選択肢の一つになる事業と言えます。ビジネスの多様性とリスク回避のための備えが、経営基盤を確かなものにしてくれます」

―今後の展望は。

「当社は創業48年となります。一貫してお客さまのために取り組んでまいりました。今年もこれまでと同様、堅実で誠実なサービスに努め、混迷の時代を乗り切るための『安心できる備え』を提案することで、お客さまに喜んでいただくことに徹してまいりたいと思います」

千代田区の中央ビルコン株式会社

㈱ リビエラ

青森市第二問屋町3－2－23
☎017－729－1781

代表取締役
今　喜代美氏

省エネ技術 磨きかけ発信

―2022年度について。

「弊社は地下水の熱エネルギーを冷暖房、融雪などに活用する省エネルギー設備の設計・施工を主に手掛けています。コロナ禍の3年間は、エネルギー高騰などで建築資材や機器などが大幅に値上がりしたり、半導体の納入遅れが続いたりしています。お客さまの工事予定が建築コスト高騰などによって延期・中止となったケースもあり、経営環境は相当厳しいです」

「そんな中でも、補助金を活用した老健施設や企業社屋、宿泊施設、スーパーマーケットなどの設備工事の案件が進んでいます。ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の計画も含まれています。また弊社の技術などが評価され、本年度は東北ニュービジネス大賞特別賞、東北地方発明表彰・青森県発明協会会長賞を受賞しました」

―特許の取り組みは。

「22年度の特許登録は2件、出願は5件でした。今後も毎年5件の出願を目指します。特許登録のうち一つは、ヒートアイランド現象の一因でもある冷房の空冷式室外機の高温排熱を防ぐ『熱交換補助装置』です。もう一つは『貯水利用設備』で、地下貯水槽にためた雨水などを地下水熱などで温度調整して融雪などに使うことができます」

―今後への意気込みは。

「電気料金高騰の中、地下水熱や海水熱などを活用する省エネ技術をさらに普及させたいです。研究機関などとの共同研究にも取り組み、青森の技術を磨いて全国に発信したいですね」

青森市のリビエラ。地下水熱利用融雪で駐車場は真冬も快適＝2月9日

サンライズ産業㈱

弘前市賀田1－7－1
☎0172－82－3316

代表取締役
工藤　博文氏

事業エリア 中京まで拡大

―業務内容は。

「当社は物流事業を柱としてレンタカー、中古車販売、ディゼルエンジンの排出ガスを浄化するための尿素水（エコツーライト）の製造・販売、セルフスタンド、不動産事業、住宅建築業、管材卸売業など多角的に事業を展開しています。物流事業は18車種、計800台以上の車両を保有しており、多種多様なものを運べます。また、3PL（保管、仕分け、配送・組み立て）の物流体制を確立し、一貫した効率性のある物流戦略を提案できます」

―2022年度を振り返って。

「19年度から20年度に実施した6社の合併・買収（M&A）に続き、新たにラッキー運輸・ラック（札幌市）・住田交運（岩手県）を買収し全体で13社、社員数900人を超える規模の複合型企業に成長しました。事業エリアは北海道から中京まで広がっています」

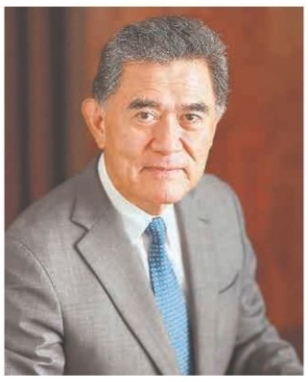
―23年度の抱負を。

「3PL事業を拡大するために4年前、マイナス40度まで急速冷凍できる冷凍・冷蔵庫を花巻営業所（岩手県）に備えました。食の安全・安心輸送を一層促進するため、新たに十和田、盛岡、郡山、宇都宮の各市に冷蔵・冷凍庫を建設するとともに、車両の更新を順次進めていきます。これからも『全てに感謝の心を忘れず、全力を尽くす』をモットーに、全社員が心を一つに進んでいきたいと考えています」

サンライズ産業花巻営業所

フジプラント㈱

弘前市高田2－5－1
☎0172－28－3010



代表取締役
藤崎　和夫氏

太陽光に注力し社会貢献

―2022年度について。

「当社が展開している営業分野それぞれで営業成果が上がって増収・増益となり、前期の減収を埋める結果となりました。数字上での経営状況はそれなりに推移していますが、問題も抱えています。1番目は人材の確保です。求人活動に力を入れているものの、なかなか望ましい応募がありません。求職者から喜んで応募したい会社と見直されるための対策を真剣に検討し、斬新なホームページ作りに向けた取り組みや、給与水準の見直しを行っている最中です。2番目は1番目と重なる問題ですが、在籍社員の給与のベースアップです。最近の著しい物価高を十分に補える賃上げをすることで、社員のモチベーションアップを図り、皆で楽しく張り切って働ける環境を創る必要性を強く感じています。日本全体としても、世界の先進国と比較した時に、経済的にも賃金ベースでも順位を下げ続けている状況は好ましくないと感じています。現実は厳しいものがありますが、皆で意識して少しでも現状打破に向かいたいものです」

―今後の展望を。

「以前も述べた通り、再生可能エネルギー事業への取り組みは、周知の通り国際的なニーズに応えるものであり、その分野における社会貢献のため、太陽光発電設備工事の取り扱いを行っています。これからはさらにこの事業に力を入れ、社内のチーム体制も強化していこうと考えています」

電気料金を削減できる自家消費型太陽光発電設備

無断複製・転載を禁じます